

# いのちの ひろば

Vol.  
**208**  
2014.5.25

■1面 出生前診断のいま

■2面 女性の病気シリーズ②  
「子宮脱」

■3面 地域医療連携  
「高島整形外科」

■4面 看護職員のユニフォームが一新  
糖尿病公開講座  
庭園ギャラリー ほか



産まれる前に病気がわかった  
赤ちゃんとお母さんたちを  
支えるとりくみ

## プレネータルサポートチームについて

### 出生前診断のいま

高槻病院 副院長 小児脳神経外科 山崎 麻美

## 多職種連携の



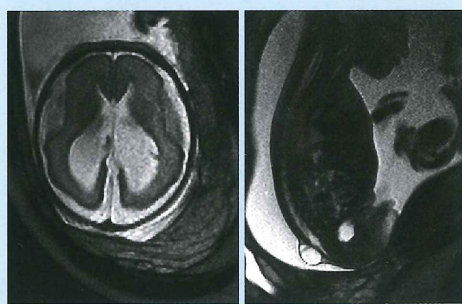
昨年、「新型出生前診断」が話題になりました。これは妊婦さんから採血しその血液中の遺伝子を解析することにより、ある種の染色体病を診断する検査のことです。この実施をめぐって、マスコミでは出生前診断の是非について多くの意見が述べられてきました。「新型」ではない出生前診断には、これまで行われてきた羊水検査や絨毛検査があります。これは妊婦さんのお腹の上から針を刺して羊水や絨毛を採取するので、侵襲的検査と呼ばれており、胎児に何らかの病気の疑いがあるときのみ行います。

しかし実は出生前診断はこれらだけではありません。実際に診断されている場合のほとんどは、胎児エコー検査によるものです。産科の外来では皆さんご存知のように胎児エコー検査は妊娠中の胎児の状態を診るために日常的に行われています。ここ数年、超音波診断機器はめざましく進歩してきました。現在では3次元・4次元画像まで瞬時にして描き出してくれ、早いときには妊娠6週ごろから遅くても妊娠10週過ぎには、小さい我が児と超音波画像を通して対面できるというのが一般的になっていきます。3次元画像で胎児の表情、4次元画像ではあくびをしたり伸びをしたりすることも観察でき、育児雑誌などではコンテンツが

あつたりもする時代です。子どもが元気で、すくすく育っていれば、ほほえましい光景ですが、ひとたび子どもに病気が見つければ、事態は一転します。胎児の病気を告げられた両親は、驚き悩みどうしたらいいのかからなくなってしまう。日本では、こんなに胎児エコー検査が普及してきたのに、もかかわらず、その後のケアが全くといっていいほどできていなかったという現状がありました。

「プレネータルサポートチームを始めました」

そんな中で、全国に先駆けて当院では2年前の4月に、プレネータルサポートチームを発足しました。メンバーは、産科・新生児科・小児外科・小児脳神経外科の医師、外来・NICU・GCU・MFICUの看護師および助産師、理学療法士、臨床心理士、MSW、医療秘書科事務と多職種から構成されています。全国で初の専任の周産期コーディネーターを配置し2週間に1回の会議を持ちながら、これまで約2年間で61



＜エコー画像＞  
30週2日、脊髄膜瘤、水頭症を指摘され、帝王切開手術を施行した。

家族をサポートしてきました。

「正確な診断とサポート」

まずしっかりとサポートするにあたって、正確な診断が必要で、生まれる前にわかる病気は多岐にわたるので、それぞれの診療科の医師の意見、時には全国の専門家の意見や情報も集めます。妊娠21週以

前の診断であれば、今回の妊娠をあきらめることもあり。諦めるのも苦渋の決断です。もちろん病気があっても、しっかりと病状を受け止め継続を判断される方も多くいらっしゃいます。いかなる決断であっても、しっかりとサポートしていく姿勢で臨んでいきます。継続の時は、お産の時期や方法その後の治療のタイミングなどを議論し、ご両親とチームのメンバーと面接を行い、時には赤ちゃんが生まれてから入るNICUの見学なども行います。

「周産期コーディネーターと多職種連携」

それぞれの場面で、周産期コーディネーターは時間をかけて妊婦さんと面談し、いま抱えている問題

点を抽出しその解決のために、話し合ったり、その説明をするのに適切な職種の人との面談をコーディネートしたりします。

出生前診断された胎児の家族は実際、いろんな診療科の医師や看護師、多職種の人と会わなければならず、それだけでも大変なストレスになります。多職種で情報を共有し、「あなたの赤ちゃんのことはみんなが知っているし、見守っていてあげていきますよ。」というメッセージだけでもどんなにか救われるかしれません。

### 「全てのおさない命に尊厳と愛を持って」

待ちに待ってやっとできた子どもにも重い病気があるとわかって、暗い気持ちでこの病院を訪れたお母さんがたが、サポートチームのいろんな人と一緒に悩み苦しむ長いトンネルを抜け出し、前を向いてたくましく生きて行ったり、子育てを楽しんだりしている姿勢に、私たちも多くのことを教えられました。

重い病気を持ってお母さんのおなかに宿った子どもも生まれてくることも、全ての命の尊厳を思い、愛を持ってプレネータルサポートチームは、頑張ります。



プレネータルサポートチームメンバー — 筆者 下段中央

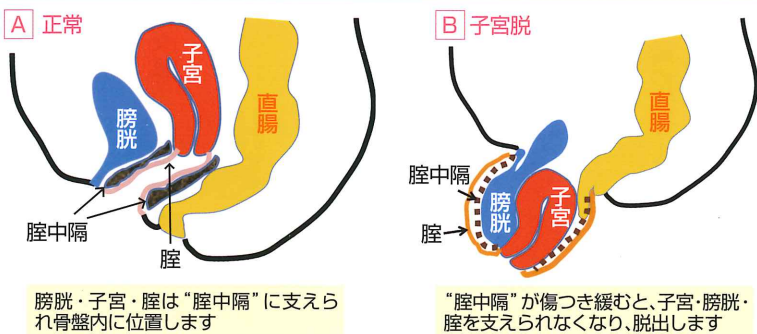
## 女性の病気シリーズ②

総合周産期母子医療センター長 産婦人科 小辻 文和

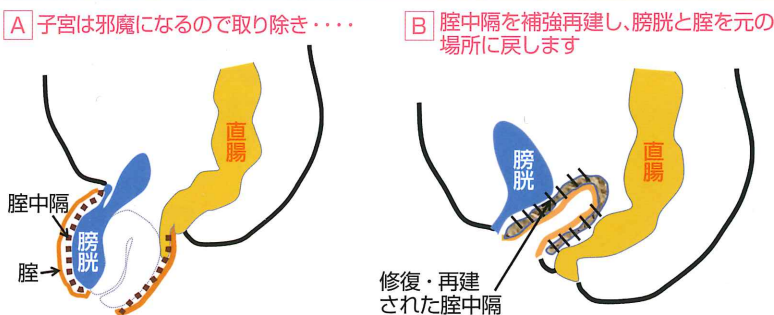
# 子宮脱外来を始めました

## ～膣壁形成術を受けて快適な日常生活を取り戻しましょう～

### 図1 正常婦人と子宮脱婦人の骨盤臓器の位置



### 図2 膣中隔の修復再建手術



### 子宮脱とは

子宮脱とは、子宮・膀胱・膣が股間に出てくる異常です(図1)。子宮脱になると不愉快だけでなく、歩きにくい、重い物が持てないなど、日常生活に不都合をきたします。また、ひどくなると尿が出にくくもなります。

社会の高齢化とともに、子宮脱でお悩みの女性が増えていきます。高槻病院産婦人科は、子宮脱の治療で大変優れた成績を挙げています。私たちの手術を、多くの女性たちにお知りいただくために、「子宮脱・膣脱外来」を始めました。

何故「子宮脱になるのか」  
ヒトは二本足で立つため、子宮

宮や膀胱には、下に向けての力がかかり、外陰から外に押し出されようとしています。これを防ぐのは、膀胱と膣の間にある膣中隔です(図1Aを参照)。膣中隔が、お産の時に引き伸ばされて裂ける「また、加齢により弱くなる」と、子宮・膀胱・膣を支えることができなくなり、股間に出てきます(図1B)。

### 高槻病院で行われる手術法と治療成績

高槻病院では、「弱くなった膣中隔を再建する手術」を行っています(図2A)。その後、膣の左右奥に

隠れている「分厚くて弾力のある正常な中隔」を引き出して、新しい中隔にします(図2B)。

これまでに386人(37歳～87歳の女性にこの手術を受けていただき、再発は3名です(3名ともに再手術により根治しています)。手術中のトラブルはゼロ、手術の後も違和感や性生活の支障はありません。これは、「世界の水準(再発率30～50%)を遥かに上回る成績」で、過去に、日本産婦人科学会で最優秀演題賞をいただきました。

子宮脱の修復は、患者さん達に「最も喜ばれる手術」で、多くの方が「世の中が明るくなった」とおっしゃっています。恥ずかしさから人知れずお悩みになるのが子宮脱の特徴です。一人でも多くの女性たちに、この手術を知っていただき、快適な日常生活を取り戻していただきたいと願います。

### 参考情報

ポリプロピレン・メッシュを膀胱と膣の間に埋め込み、膣中隔の代わりをさせます(メッシュ手術・TVM)がありますが、骨盤底の深くでの「手さぐり」操作が必要のために、様々なトラブルが報告されています。2011年に米国FDAがメッシュ手術に伴う深刻な合併症は稀ではないと警告を発したことから、高槻病院ではメッシュ手術は行っておらず、上述の「患者さん自身の組織を用いて修復」する方法を行っています。

開放型登録医紹介

高島整形外科

高島 孝之 先生



あらゆるリハビリテーションを行える診療所を目指して

開院の経緯

神戸大学医学部を卒業後、神戸大学医学部附属病院、高槻病院の整形外科に勤務し、その後ドイツケルン大学、ウルム大学病院で解剖学の教官として教育と足の研究、並びに数多くの手術症例を経験しました。帰国後、リウマチの基

礎研究と骨粗鬆症発生メカニズムの研究を行いつつ、臨床では、整形外科腫瘍グループのリーダーとして教官を務めました。その後、兵庫県立の小児整形外科と障害児療育、小児のリハビリテーションにたずさわりました。

療育に関わる間に、もつと患者さんの身近な存在でありたいと思い、平成7年8月に生まれ育った茨木市沢良宜の地で高島整形外科を開院いたしました。

専門分野

整形外科分野での様々な経験を生かして、リハビリテーション・関節リウマチ・骨粗鬆症・スポーツ整形外科を専門としています。特に、リハビリテーションに力を入れており、お子さんからご年配の方まであらゆる年代の方に対応しています。手術後の早期リハビリテーション・急性期リハビリテーション・介護保険での通所リハビリテーション・機能訓練強化型デイサービスなど患者さんにとってより良いリハビリテーションを行うため、理学療法士・作業療法士・リハビリテーションスタッフ（アシレチックトレーナー・介護福祉士・鍼灸師）を配置するに至りました。時代の流れやニーズに柔軟に

対応し、患者さんの運動機能の維持・向上に力を注いでおり、スポーツ整形外科の分野では、スポーツ外傷後のお子さんの診療も行っています。また、開院以来、地元サッカークラブ・ガンバ大阪のチームドクターを務めており、地域に密着した医療を行っています。

クリニックの特徴

リハビリテーションにおいては、患者さんの年齢・活動性など個々の要望に合わせたゴール設定を大切にする必要があります。日常生活に支障がない程度をゴールとするのか、スポーツができるように

なるまでをゴールとするのか等、その方の目標に沿った個別リハビリテーションを心がけています。それらに対応できるように理学療法士・作業療法士・スポーツトレーナー・介護福祉士など様々な専門分野のスタッフが互いに密に連携をとり、たくさんの選択肢の中からその方に合わせ多角的にアプローチをしています。当院は初診・再診共にご予約が可能です。フリーダイヤル・ホームページから24時間予約を受け付けておりますので、ぜひ、ご予約の上ご来院ください。

高槻病院への要望

高槻病院には、救急の入院依頼や夕診時の急患依頼も快く受け入れていただいております。助かっています。今後もスムーズな受け入れを期待しています。

高島先生、お忙しい中ありがとうございます。地域の健康維持・増進・予防をも担う診療所としてのお立場からお子さんから年配の方まで様々な患者さんの生活を大切にされていらっしゃるよう感じました。

また、2階・3階の訓練室には多くの療法士の方がいらっしゃるしやり、様々なリハビリテーション機器の設備が整っ



高島整形外科

〒567-0868 茨木市沢良宜西1-13-22

TEL.072-630-2600

予約専用電話フリーダイヤル0120-86-4891(24時間受付)

【診療内容】整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科

【診療時間】午前9時～12時 午後4時～7時

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	○	×	○	×

休診日/木曜日、土曜日の午後、日・祝

ていました。先生もとても明るい雰囲気です。先生のお話くださいました。今後も、先生のご要望にお応えできるよう医療の連携に努めてまいります。よろしくお願いいたします。

地域医療部 黒井・梅村

## 看護職員の ユニフォームが変わりました

5月より看護職員のユニフォームが変わりました。これまで以上に機能性を重視したデザインとし、男女ともに統一したユニフォームを着用することで、看護のチーム力も一層アップさせていきたいと思っております。



## 高槻病院 新館が姿を現しました

現在、工事中的の新病院第一期工事は着々と進んでおり、5月に入って外観がご覧頂けるようになりました。秋の完成後には最新の機器設備を導入し、地域の高度医療をリードする領域別のセンター化を計ってまいります。その実践に向けて個人個人のスキルアップ、チーム医療の一層の強化に力を入れています。



### INFORMATION

#### 糖尿病公開講座

- 5月30日(金)15時~16時  
『食材をもっと知ろう』  
担当: 栄養士  
場所: 愛仁会リハビリテーション病院 8F 第2会議室
- 6月13日(金)15時~16時  
『フットケアについて』  
担当: 看護師  
場所: 愛仁会リハビリテーション病院 9F アイワホール
- 6月27日(金)15時~16時  
『検査値の見方 いろいろ』  
担当: 検査技師  
場所: 愛仁会リハビリテーション病院 9F アイワホール
- 7月11日(金)15時~16時  
『合併症について』  
担当: 医師  
場所: 愛仁会リハビリテーション病院 8F 第2会議室

#### ▼ギャラリー4月

- 三月に入ってから雪が降ったり寒暖差にとまどう日もありましたが、今回の庭園ギャラリーは、一足早く満開の桜で待ち遠しかった春を先取りです。四季の最初の春は、草木の芽が『張る』(芽がふくらむ)また、『壘(は)る』(開壘する)の意味があります。この桜には、目標に向かって進むという思いが込められています。惜しまれつつ風に舞う花びらの後は、新緑の躍動感ある五月です。端午の節句のお祝いに、金太郎が登場です。『気は優しくて力もち…』健やかでたくましい金太郎は、五月人形でもお馴染みです。また、国民の祝日、子供の日は、子供の人格を重んじ子供の幸福をはかる趣旨で制定されています。子供達の健やかな成長を祈ります。



▲ギャラリー5月

### 庭園ギャラリー

看護部広報委員会  
西本 純子

#### ■高槻病院の理念 「患者さまの満足する医療」

##### ■患者さまの権利

1. 患者さま個人の人格や価値観が尊重され、医療者との信頼関係の下で、良質で安全、公正な医療を適切に受ける権利があります。
2. 病気の診断・治療・予後などに関して、その効果や危険性、または他の方法の有無について、理解できるようにわかりやすい説明を受ける権利があります。
3. 理解できるわかりやすい説明を受けたのち、検査の諾否や治療法の選択などについて自分で決定する権利があります。

##### ■患者さまの責務

1. 患者さま自らの健康状態に関する情報をできるだけ正確に医療者に伝える責務があります。
2. 病気の診断・治療・予後などに関して、理解できるまで質問をする責務があります。
3. すべての患者さまが良質で安全な医療を適切に受けることができるように、他の患者さまの診療や病院の医療提供に支障をきたさないように配慮する責務があります。